

平成29年度 大学病院情報マネジメント部門連絡会議

抄 録 集

「協働と連携、そしてその先へ」

— 情報連携のシームレス化を目指して —



会 期

平成30年 1月31日(水)～2月2日(金)

会 場

アートホテル旭川(北海道旭川市)

大会長

廣川 博之(旭川医科大学病院 経営企画部長)

ご挨拶

平成 29 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議

大会長 廣川 博之

(旭川医科大学病院 経営企画部長)

この度、平成 30 年 1 月 31 日（水）、2 月 1 日（木）、2 日（金）の三日間にわたり、旭川市において平成 29 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議を開催させていただくこととなり、関係者各位に厚くお礼を申し上げます。

本会議は、国立大学病院のみならず、公立・私立大学病院等の情報マネジメントに関わるあらゆる職種の方々が一堂に会し、病院における情報の在り方・医療の質・医療の安全性・医療経営・業務の効率化等について議論を交わすことができる、貴重な機会として長年にわたり開催され、情報マネジメント部門の管理・運営に多大な貢献をしてきたものです。あわせて、病院の教職員のみならず、関係する医療・情報関連企業の方々にとっても有益な機会となっております。

平成 29 年度の本会議は、「協働と連携、そしてその先へ ～情報連携のシームレス化を目指して～」をテーマとし、企画しました。超高齢化社会を迎えるに当たり、医療資源の有効活用が求められ、医療の ICT 化の広がりと共に、病病・病診・在宅までの連携や多職種協働が定着しつつあります。これまでは、病病・病診、多職種といった横への繋がりを中心に、ICT 化が進められてきました。今後は、さらに蓄積され続ける医療情報を未来へいかに正確に、安全に、そして効率よく繋いでゆくかが重要となります。そこには、患者情報のみならず、医療安全に関わるノウハウ、個人情報保護やセキュリティ対策、情報の二次利用なども含まれます。これらに関わる諸問題への対応が、今、まさに大学病院に求められています。

このような状況にあって、本会議では病院情報システム、薬剤部門、検査部門、放射線部門、看護部門、事務部門、診療情報部門、臨床研究部門及び部長会セッションをはじめ、UMIN 関係の各種委員会を予定しています。また、テーマに沿った情報交換のセッションも企画しています。さらに、今回は遠隔医療を始めとして、医療の ICT 化に造詣が深い旭川医科大学吉田晃敏学長に特別講演をお願いしています。

今回の会場は旭川市の市街地にあり、旭川駅、旭川空港からのアクセスも便利です。天気の良い日には、雄大な冬の大雪山をご覧いただけるかと思えます。大変寒い時期ではありますが、建物、交通機関共に防寒対策は十分取られております。ご参加なされる皆様にとり、有意義な討論と交流の場にさせていただきたく、よろしくご厚い申し上げます。

平成 30 年 1 月吉日

日程表

1月31日(水)

会場	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00	20:30
A会場 ホールルームⅠ (3階)															幹事会 15:00~16:00									
B会場 ホールルームⅡ (3階)																部長会 16:00~18:00								
北海道スカイテラス MHOⅡ (16階)																						部長会懇親会 18:30~20:30		

2月1日(木)

会場	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00	20:30	
A会場 ホールルームⅠ (3階)	開 会 式		A-1 地域連携 9:00~10:20		A-2 部長会 10:35~12:05			ラン チ ン 1 ア ラ イ ド チ レ ス 特 12:20~13:20		A-3 病 院 マ ネ ジ メ ン ト (事 務) 13:35~15:35															全 体 懇 親 会 18:00~20:00
B会場 ホールルームⅡ (3階)		B-1 臨 床 研 究 ・ 治 療 9:00~10:30		B-2 看 護 10:35~12:05			ラン チ ン 2 新 フ ア イ ン テ ク ス 12:20~13:20		B-3 病 院 情 報 シ ス テ ム 13:35~15:05																
C会場 ザ・ウェストルーム (2階)								ラン チ ン 3 日 本 電 気 社 12:20~13:20		C-1 給 料 13:35~15:05		C-2 情 報 提 供 A 15:10~16:40													
D会場 ザ・ウェストルーム (2階)		D-1 診 療 情 報 管 理 9:00~10:30		D-2 放 射 線 10:35~12:05			ラン チ ン 4 D e ll E M C 12:20~13:20		D-3 薬 剤 13:35~15:05		D-4 検 査 15:10~16:40		D-5 情 報 提 供 B 特 別 講 演 16:50~17:50												
P会場 ライラック・パンジー ローアン (2階)																ポ ス タ ー 立 会 16:15~17:15									
委員会会場 B12ルームⅠ (4階)		UMN小 学 員 会 業 務 9:00~10:00		診 療 情 報 管 理 士 連 絡 会 10:40~12:00										UMN協 議 会 幹 事 会 15:00~16:40											
企業展示会場 3階ロビー																									
展示ルーム ハマナスⅠ (3階)																									
展示ルーム ハマナスⅡ (3階)																									
展示ルーム コスモス (2階)																									
展示ルーム アザレア (2階)																									

2月2日(金)

会場	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00	20:30	
A会場 ホールルームⅠ・Ⅱ (3階)		基 調 講 演 9:00~10:00		総 会 ・ 閉 会 式 10:05~11:30			UMN 協 議 会 幹 事 会 11:30~12:00																		
大和 (4階)									選 挙 委 員 会 12:00~13:00																
P会場 ライラック・パンジー ローアン (2階)																									
企業展示会場 3階ロビー																									
展示ルーム ハマナスⅠ (3階)																									
展示ルーム ハマナスⅡ (3階)																									
展示ルーム コスモス (2階)																									
展示ルーム アザレア (2階)																									

プログラム

開会式

日 時：平成30年2月1日（木）8：45～9：00

会 場：A会場 ボールルームⅠ（3階）

基調講演

大学病院を取り巻く諸課題

日 時：平成30年2月2日（金）9：00～10：00

会 場：A会場 ボールルームⅠ・Ⅱ（3階）

座 長：坂口広志（旭川医科大学 事務局）

演 者：丸山 浩（文部科学省 高等教育局 医学教育課 大学病院支援室長）

セッション

1 病院マネジメント（事務）

みんなで一緒に財務改善 ～事務が牽引する費用削減～

日 時：平成30年2月1日（木）13：35～15：35

会 場：A会場 ボールルームⅠ（3階）

座 長：佐藤俊明（旭川医科大学病院 事務部）

国立大学の法人化以降、各国立大学病院は収益増大・費用削減に取り組んでいただいております。そのなかでも事務主導で進めて行くべき一つとして、医療材料費削減があげられますが、医師、看護師、技師、皆それぞれの立場がありコンセンサスを得ることに労力を費やす等、一朝一夕にはいかないのが現実かと思われまます。

このセッションでは、データ分析を根拠として、各職種の意見や希望を取り入れつつ協力して経費削減に至った事例や、特色のある取組についてご紹介いただきます。

1. 算定漏れを見つけ出すキッカケとなったHOMASベンチマーク

～K595 3次元カラーマッピング加算～

市川貢資（鳥取大学医学部附属病院 経営企画課 企画分析係）

2. HOMAS2を活用した診療科ヒアリング資料 ～運用変更で1億円～

斉藤憲市（徳島大学病院 経営企画課 経営企画係）

3. 診療科等ヒアリングでのHOMAS2利用者別原価計算資料について

～「経費率分布図」と「DPC別原価計算結果」による収支改善に向けた取り組み～

原 明希（名古屋大学医学部附属病院 経営企画課経営分析係）

4. QIを含めた重要業績評価指標（KPI）による経営改善状況の把握管理

～HOMASのビッグデータ等を活用した目標値設定とマネジメント～

國吉徹也（琉球大学医学部附属病院 医学部経営企画課）

5. 宮崎大学病院における診療情報サポート体制

～医事課における診療情報連携のワークフロー化～

平島しおり（宮崎大学医学部附属病院 医事課）

6. 看護師の超過勤務時間データを用いた現状把握と統計分析

妹尾信孝（島根大学医学部 会計課経営支援担当）

2 病院情報システム

ベンダーの変更を伴う HIS 更新を考える

日 時：平成 30 年 2 月 1 日（木）13：35～15：05

会 場：B 会場 ボールルームⅡ（3 階）

座 長：遠藤 晃（北海道大学病院 医療情報企画部）

オーガナイザー兼座長：廣川博之（旭川医科大学病院 経営企画部）

昨年度の本会議で、部長会セッションのテーマが「HIS 更新の問題点を考える」であった。課題としてデータの継承やシステム費用削減要請などがあげられていた。特にデータ継承に関しては、新システムへの 100%データ移行が現場の要請であり、同じベンダーでの更新であればデータ移行についてはさほど問題とならないであろうが、他ベンダーへの変更した場合、データ移行が十分行われず、あるいは完全な移行に膨大な時間を要する可能性がある。昨年の本会議でも、ベンダーの変更により医療スタッフの負担が増えることが予想され、さらに変更後のデータの真正性、保存性に課題がある、との発言があった。このように他ベンダーへの変更はリスクを伴うと思われるが、HIS ベンダー変更を行った大学病院は少なくない。本セッションでは、HIS ベンダー変更を行った施設と予定通りにできなかった施設に更新時の経過や問題点などについて発表いただく。併せて、HIS 構築支援を業務としているお立場の方に、ベンダー変更時に病院が留意すべき点、必要な情報などについてお話しいただく予定である。

1. カスタマイズシステムから別ベンダーの HIS パッケージへの更新

中島直樹（九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター）

2. 旭川医科大学病院が経験したこと

廣川博之（旭川医科大学病院 経営企画部）

3. 他社リプレース時の留意事項

佐藤廣志（有限会社システリア考房）

4. 病院情報基幹システム更新時の病院側影響と対応に関して

木寅信秀（株式会社医用工学研究所）

3 部長会

多施設症例データベース事業の現状

日 時：平成 30 年 2 月 1 日（木）10：35～12：05

会 場：A 会場 ボールルームⅠ（3 階）

座 長：本多正幸（長崎大学病院 医療情報部）

オーガナイザー兼座長：廣川博之（旭川医科大学病院 経営企画部）

近年、学会等が中心となり、電子カルテデータ、DPC やレセプトデータを収集する多施設症例データベース構築事業がいくつかの診療科で行われるようになってきた。これに人工知能技術を加えた応用研究も進められつつある。これまでにない全国規模のデータベースを構築することによって得られる効果は計り知れず、今後、様々な分野に広がって行くものと考えられる。

そこで、本セッションでは現在全国で行われている症例データベース構築事業のうち、糖尿病（J-DREAMS）と腎臓病（J-CKD-DB）のデータベース事業の取り組みをご紹介いただく。また、規模が大きくなるほど問題となるネットワークセキュリティについて、ネットワーク事業者から課題や解決策をご報告いただく。

1. 診療録直結型全国糖尿病データベース（J-DREAMS）事業について

中島直樹（九州大学病院 メディカル・インフォメーションセンター）

2. 全国規模の包括的慢性腎臓病臨床効果情報データベース（J-CKD-DB）の構築

岡田美保子（公益財団法人先端医療振興財団）

3. 病院情報連携ネットワークの強靱化について

～病院情報データ連携における強靱なインフラ設計～

中島 豊（アライドテレシス株式会社 ビジネスデベロップメント部）

4 診療情報管理

診療記録の質の向上と証明

日 時：平成 30 年 2 月 1 日（木）9：00～10：30

会 場：D 会場 ザ・イーストルーム（2 階）

オーガナイザー：西山 謙（九州大学病院 経営企画課）

オーガナイザー兼座長：初山 貴（北海道大学病院 診療録管理室）

座 長：長谷部直幸（旭川医科大学病院 第一内科）

医療法施行規則（特定機能病院の承認要件）や医療事故調査制度においては、実施された医療行為やインフォームド・コンセントが正確に記録されていることが重要であり、診療情報管理部門は、診療記録の質的担保を確保するために、改めて昔から言われる「カルテの番人」としての役割が強く求められています。

一方、電子カルテを導入する医療機関が増加しており、管理する情報量も増加していますが、診療記録の質を担保するためのシステムを構築している医療機関は一部に留まっているのが現状です。

本セッションでは、各医療機関で「カルテの番人」としてどのように診療記録の質向上に取り組んでいるのかをご紹介いただき、診療記録の監査体制や監査を行うための教育体制等について議論を行い、診療記録の質向上のために診療情報管理部門がどのようにあるべきかについ

て考えていきます。

1. 最近の当院での取り組みと保険監査について

細川敬貴（東京大学医学部附属病院 医事課病歴チーム）

2. 診療記録の質管理を継続させるための組織づくりと診療情報管理士の人材育成

～人材育成は質の向上と継続に繋がる～

中筋真寿美（鹿児島大学病院 医療情報部）

3. 診療記録と監査について

西山 謙（九州大学病院 経営企画課）

4. 医療の質を支える職種として ～ 診療情報管理士への期待 ～

入江真行（和歌山県立医科大学 先端医学研究所
医学医療情報研究部）

5 看護

地域の特性を活かした協働と連携

日 時：平成30年2月1日（木）10：35～12：05

会 場：B会場 ボールルームⅡ（3階）

オーガナイザー兼座長：原口真紀子（旭川医科大学病院 看護部）

座 長：本 尚美（熊本大学医学部附属病院 看護部）

現在、地域包括ケアシステムの構築に向け連携・協働の重要性が高まっているとともに、医療機関から在宅へと療養の場の転換がはかられ、看護職が積極的に地域の関係者とのネットワークを構築し、地域の特性にあわせた看護サービスを提供することが重要となっています。地域連携においてもICT技術が活用されてきており、看護においても健康増進、疾病との共存、回復、看取りなどそれぞれの場面、場所において情報を共有し、活用することでより質の高い看護の提供につながります。

本セッションでは、地域の中核を担う大学病院で地域の実状に応じた、協働と連携についてご紹介いただき、最新の情報や課題を共有し、これからの協働・連携の在り方について考えたいと思います。

1. ICTを活用した顔の見える連携づくり ～テレビケア会議の実践から～

川端有紀（旭川医科大学病院 地域医療連携室）

2. 地域で暮らす患者さんを支えるためのHIV診療ネットワーク作り

渡部恵子（北海道大学病院 医科外来ナースセンター）

3. 健康を地域全体でサポートする

今村かおる（熊本大学医学部附属病院 看護部）

4. 切れ目のない医療・介護の提供のために

～看看連携と介護専門支援員との連携のための取り組み～

篠原弘枝（信州大学医学部附属病院 医療情報部・看護部）

6 歯科

病院の情報連携基盤を医科歯科多職種連携に活かす

日 時：平成 30 年 2 月 1 日（木）13：35～15：05

会 場：C 会場 ザ・ウエストルーム（2 階）

オーガナイザー：鈴木一郎（新潟大学医歯学総合病院 患者総合サポートセンター）

座 長：玉川裕夫（大阪大学歯学部附属病院 医療情報室）

森本徳明（矯正歯科 森本）

高齢化に伴う疾患構造の複雑化にともない、単一の機関では医療・介護が完結することは少なくなっている。患者は複数の診療・介護施設、事業所から複数の医療やサービスを受けており、歯科においても医科、介護等との情報交換なしに診療を完結することは困難な事例が急激に増加している。今回、病院の情報連携基盤を多職種連携、診療施設間連携へ活用して地域医療・介護を充実させていくかを目的に本セッションを企画した。

伊藤先生には医学部と歯学部附属病院が統合した後の多職種連携、医科歯科連携を医療情報システムの中で運用されているか。さらに ID-Link 等の地域連携ネットワークシステムおよび医療機関管理システムについてお話しいただく。

高柴先生には岡山県全域で運用されている地域医療 ICT ネットワークである岡山晴れやかネットによる医療施設間連携、医療・介護での多職種連携について、さらに歯科診療所などの小規模施設からの情報を公開する双方向情報共有システムに関しての実際と問題点をお話しいただく。

小神先生からは大学病院医局と病院歯科間の症例検討を、患者情報を守った上でいかに安価で、容易に行うかに関して、医療者間コミュニケーションアプリの Join を用いた症例検討の実際例と地域連携への展望を語っていただく。

本セッションでは病院内多職種における連携、小規模医療施設を含めた地域医療・介護の連携、歯科医療従事者間での連携について各演者から講演いただいた後、今後医療情報システムをどのように有機的に活用し連携していくかについてフロアの皆さんも含めて議論したい。

1. 北海道大学病院における医科歯科、他職種連携等に関する取り組み

伊藤 豊（北海道大学病院 医療情報企画部）

2. 院内の診療科間から院外の医療機関間での多職種連携へ

～医療ネットワーク岡山晴れやかネットでの連携の理想と課題～

高柴正悟（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 歯周病態学分野）

3. Join を利用した病院歯科間連携

小神順也（旭川医科大学 医学部 歯科口腔外科学講座）

7 薬剤

これからの薬剤情報における新たな展開を考える

日 時：平成 30 年 2 月 1 日（木）13：35～15：05

会 場：D 会場 ザ・イーストルーム（2 階）

オーガナイザー：田崎嘉一（旭川医科大学病院 薬剤部）

座 長：三嶋一登（旭川医科大学病院 薬剤部）

高田敦史（九州大学病院 メディカルインフォメーションセンター）

特定機能病院の医療安全管理体制の確保およびガバナンス体制の強化を図るため、医療法施行規則が改正された（医政発 0610 第 18 号）。より高度な医療安全管理体制の確保がなされるよう「未承認・適応外・禁忌等に該当する処方を含む情報の収集その他の医薬品の安全確保を目的とした改善のための方策の実施及び職員による当該方策実施の徹底」、医薬品安全管理を含めた内部統制・体制強化が規定された。また、2013 年 4 月 1 日以降に製造販売承認申請される新医薬品については医薬品リスク管理計画（RMP）を策定することが義務付けられている（薬食審査発 0411 第 2 号）。RMP では医薬品について安全性検討事項を特定し、使用成績調査、市販直後調査等による調査・情報収集や、医療関係者への追加の情報提供などのリスク最小化計画を医薬品ごとに文書化している。こういった背景のもと、医療安全の確保、医薬品適正使用の推進において、薬剤情報のマネジメントは極めて重要であり、今後の薬剤業務への応用・展開が期待される。

本セッションでは、各施設の薬剤情報に関する業務の効率化、情報の共有化、地域医療との連携強化などの取り組みを紹介いただき、薬剤情報をいかに効果的に活用していくか今後の展望について討議したい。

1. 業務改善と病院経営に貢献するためのベンチマークデータの活用

栗屋敏雄（市立旭川病院 薬剤科）

2. 新たな薬剤アレルギー入力システムの導入と課題

村川公央（岡山大学病院 薬剤部）

3. 副作用モニタリング管理ツールの開発と業務効率化

石田俊介（徳島大学病院 薬剤部）

4. 院外処方せん付加情報と病院薬局講習会の効果

久保田康生（北海道大学病院 薬剤部）

5. 処方箋への検査値の QR コード印字による医薬品適正使用の推進

寺川央一（旭川医科大学病院 薬剤部）

8 放射線

放射線部門医療情報管理における連携

日 時：平成 30 年 2 月 1 日（木）10：35～12：05

会 場：D 会場 ザ・イーストルーム（2 階）

オーガナイザー：佐藤順一（旭川医科大学病院 放射線部）
オーガナイザー兼座長：林 秀樹（旭川医科大学病院 放射線部）
座 長：谷 祐児（旭川医科大学病院 経営企画部）

本セッションでは、放射線部門が関わる医療情報管理について「連携」をテーマに、異なる視点から、現状の医用画像管理・運用における最新の取り組みについて報告していただく。また、同意書の運用についてのアンケート調査結果について座長より報告する。

放射線部門では、院内外における多種多様な画像データ・検査治療に関する情報のみならず、医療安全・コンプライアンスといった間接的な情報管理にも幅広く関与しており、医療情報部を扱う部門の中でも担う役割は大きい。本セッションを通じ、情報共有とシステムの課題および今後期待される仕様等に関し論議していただき、今後の医療情報関連業務における連携について、再考する機会になることを期待する。

1. 各モダリティ放射線画像の画像連携について
～当院における放射線部門で発生する画像に関する連携について～
濱口裕行（北海道大学病院 医療技術部 放射線部門）
2. 放射線情報システムのベンダー変更に伴うデータ連携について
小泉幸司（京都大学医学部附属病院 放射線部）
3. 医療画像情報における地域連携システムの運用と課題
～くまもとメディカルネットワーク（KMN）と外部保存の活用例を中心に～
池田龍二（熊本大学医学部附属病院 医療技術部）

9 検査

未来に必要な臨床検査情報のマネジメント

日 時：平成 30 年 2 月 1 日（木）15：10～16：40

会 場：D 会場 ザ・イーストルーム（2 階）

オーガナイザー兼座長：佐藤浩樹（北海道情報大学 医療情報学部）
藤井 聡（旭川医科大学 臨床検査医学講座）

安定して効率よい臨床検査情報システムの構築は、精度の高い検査結果を効率よく提供することや患者サービスの観点から極めて重要なテーマである。各病院において、状況に応じて独自の臨床検査情報のマネジメントシステムを構築しているものと思われる。本セッションでは、現状を紹介してもらい、2025 年問題など大きな変革を迎える医療のなかで、将来の臨床検査室に必要とされる検査機器や LIS の機能、臨床検査情報のマネジメントシステムのあり方についてともに検討したい。

1. これから必要になる臨床化学自動分析装置の機能
梅森祥央（札幌医科大学附属病院 検査部）

2. 将来必要となる LIS の機能

早坂光司（北海道大学病院 検査・輸血部）

3. 「JOIN システムにおける輸血検査情報の活用」

～輸血検査とクラウド型救急医療連携支援事業～

藤井 聡（旭川医科大学 臨床検査医学講座）

4. 地域包括ケアにおける医療情報のあり方

佐藤浩樹（北海道情報大学 医療情報学部）

10 地域連携

地域連携室と医療関連情報システム

日 時：平成 30 年 2 月 1 日（木）9：00～10：30

会 場：A 会場 ポールルーム I（3 階）

オーガナイザー：小林利彦（浜松医科大学医学部附属病院 医療福祉支援センター）

廣川博之（旭川医科大学病院 経営企画部）

座 長：鈴木一郎（新潟大学医歯学総合病院 地域保健医療推進部）

古川博之（旭川医科大学病院 地域医療連携室）

2025 年に向けて地域医療構想の実現が叫ばれ、病院の機能分化が求められている昨今、大学病院においても「地域連携室」の役割はますます高まるばかりであるが、従前のアナログ的な対応から ICT を活用した医療連携・地域連携の推進が期待されている。そのような状況下、他の医療機関の診療情報を閲覧・活用する EHR や患者が自らの診療情報を管理・利用するための PHR などが現在複雑に運用されている。

今回、大学病院の地域連携室として、その種の医療関連情報システムをどのように利用・活用していけば良いのか、比較的先進的な取り組みをしている 3 大学病院から情報提供いただき議論することを目論んで本企画を立ち上げた。千葉大学の藤田伸輔先生からは PHR/EHR 統合システム（SHACHI）を用いた地域医療連携支援に関して、長崎大学病院の松本武浩先生からは地域医療情報ネットワークシステム「あじさいネット」を活用した医療連携や教育支援等の話を、旭川医科大学の石子智士先生からは眼科（ロービジョン）外来における予約システムと遠隔医療支援についてご講演いただく予定である。

いずれの演者も、大学病院の今後の「地域連携室」の在り方について言及してくれるはずであり、関係者には大いに参考となる知見が得られるものと考え。折しも、次期診療報酬改定において、従前の「退院支援」から「入退院支援」という名称変更が予定されていることもあり、時機にあった議論が濃厚に展開されるものと期待している。

1. PHR/EHR 統合システム SHACHI を用いた地域医療連携支援

藤田伸輔（千葉大学予防医学センター 臨床疫学）

2. 地域完結型医療時代の ICT を活用した医療連携

～大学病院や専門病院の地域連携室の役割はどう変わるか？～

松本武浩（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
先進予防医学講座 医療情報学）

3. 旭川医大眼科の地域連携

石子智士（旭川医科大学 医工連携総研講座）

11 臨床研究・治験

臨床研究・治験における ICT の管理と活用 ～支援の実情～

日 時：平成 30 年 2 月 1 日（木）9：00～10：30

会 場：B 会場 ボールルームⅡ（3 階）

オーガナイザー：田崎嘉一（旭川医科大学病院 臨床研究支援センター）

オーガナイザー兼座長：松本成史（旭川医科大学病院 臨床研究支援センター）

座 長：谷 祐児（旭川医科大学病院 経営企画部）

臨床研究や治験を適正に遂行するために、情報の管理が重要なことは言うまでもない。現在では、様々な ICT 技術を活用したシステムが情報管理に使われており、近年盛んになっている医師主導治験にも利用されている。また、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針が 2017 年に改訂され、そこで得られる患者情報についても、その取り扱い方に注意が必要となっている。本セッションでは、このような状況下で各施設において ICT 技術をどのように活用しているか、実情を含めてご紹介していただく。さらに AMED からデータベースに関する情報提供をいただき、今後の各施設での参考になるセッションとしたい。

1. 臨床研究・治験への医療情報システムの活用

橋本あきら（北海道大学病院 臨床研究開発センター）

2. 医師主導治験における ICT 等を活用した情報管理体制の構築

～ Apeos PEmaster Evidence Manager を使用した 1 例～

二川俊隆（鹿児島大学病院 臨床研究管理センター）

3. 構成管理ツールを用いた REDCap 簡易導入法の提案

宮本潤哉（長崎大学病院 臨床研究センター）

4. 臨床研究申請に関する当院の電子システム（ToCMS）の体制について

武智研志（徳島大学病院 臨床試験管理センター）

5. 再生医療等データ登録システムに使用されるデータベース

National Regenerative Medicine Database（NRMD）について

神山直也（日本医療研究開発機構 戦略推進部再生医療研究課）

12 情報提供 A

放射線画像や病理検査レポートの見忘れ防止

日 時：平成 30 年 2 月 1 日（木）15：10～16：40
会 場：C 会場 ザ・ウエートルーム（2 階）
オーガナイザー：廣川博之（旭川医科大学病院 経営企画部）
座 長：大崎能伸（旭川医科大学病院 呼吸器センター）
松村泰志（大阪大学医学部附属病院 医療情報部）

近年、放射線科画像に悪性腫瘍の存在を疑う記載のあるレポートや、生検で悪性腫瘍と診断した病理レポートなどの確認忘れがあったために、後日見つかった時には末期の状態であったというような事例が相次いで報告されている。以前からあったものが、最近報道される様になったとも考えられるが、なぜこのようなことが起こりうるのか、そして相次いでいるのか、その背景をまずご発表いただく。次いで、その対策として、現在行っている放射線画像と病理診断レポートの見忘れ防止方法をご紹介します。

あってはならない問題であるだけに、再発防止に向けた活発なご議論を期待する。

1. 重要診断事項見忘れの背景

大崎能伸（旭川医科大学病院 呼吸器センター）

2. 放射線画像レポートの見忘れ防止を考える

三宅秀敏（大分大学 医療情報部）

3. 病理報告書通知機能について

谷 祐児（旭川医科大学病院 経営企画部）

13 情報提供 B 特別講演

旭川医科大学における医療 ICT 戦略

日 時：平成 30 年 2 月 1 日（木）16：50～17：50
会 場：D 会場 ザ・イーストルーム（2 階）
座 長：廣川博之（旭川医科大学病院 経営企画部）
演 者：吉田晃敏（旭川医科大学）

旭川医科大学の吉田晃敏学長は本来眼科医ですが、かなり以前から医療の ICT 化に興味をお持ちで、遠隔医療支援ネットワーク網の整備、在宅医療支援や遠隔健康管理システムの構築など、これまで多くの業績があります。また、最近新たな取り組みも計画されているようですので、情報提供の一枠を用い、吉田学長に旭川医科大学の医療 ICT 戦略についてご紹介いただくことにしました。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

演者紹介：1979 年 旭川医科大学医学部医学科卒業
1979 年 旭川医科大学眼科学教室入局
1980 年 ハーバード大学医学部眼科
Schepens Eye Research Institute 留学（1983 年まで）
1985 年 釧路赤十字病院眼科部長

1986年 旭川医科大学眼科講師
1988年 旭川医科大学眼科学講座助教授
1989年 ハーバード大学医学部眼科
Schepens Eye Research Institute 留学(6ヶ月間)
1992年 旭川医科大学眼科学講座教授
2007年 旭川医科大学学長

共催セミナー

ランチョンセミナー1

アライドテレシス株式会社

病院情報システムにおけるサイバー攻撃に対する検討課題とその対策
～セキュリティ製品連携による院内情報インフラ・端末のセキュリティ強化と感染端
末の検疫隔離方法について～

日時：平成30年2月1日(木) 12:20～13:20

会場：A会場 ボールルームI (3階)

演者：中島 豊 (アライドテレシス株式会社 ビジネスデベロップメント部)

2017年から病院情報システム(HIS)における情報インフラのセキュリティ対策提案を求められるケースが増加している。背景として、Wanacry等のランサムウェアによる医療システムダウン、医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第5版発行などがあり、利便性を求める情報インフラ構築から、サイバーセキュリティを意識したインフラ構築をサポートするシステムをネットワークメーカーに求められている。

医療情報端末、医療機器は有線・無線Ethernet/IPで接続されており、一つのセキュリティホールからシステムダウンさせるようなサイバー攻撃が可能な環境でありながら、一般企業とは異なるいくつかのサイバー攻撃ポイントが存在する。

- ① 取扱い情報のほとんどが個人情報を含んだ機密情報。
- ② 個人PCおよび一般サーバ以外に共用端末やIOTデバイスといった特殊なネットワーク端末が多く存在。
- ③ ナースステーションや病棟といった病院特有なオープンスペースが多く存在し、かつ様々な人の出入りを許容。内部からのハッキングが容易

上記環境から一般企業よりセキュリティポイントは多く設けられるべきである。しかしながら現状の医療現場における情報セキュリティ対策は堅牢とは言えない。一つの原因としてセキュリティポイント(およびセキュリティ製品)を運用管理する専用工数が設けられない点があげられる。

仮にセキュリティポイント(製品)を設けたとしても、サイバー攻撃手法は年々高度化している為、各セキュリティ製品機能、検出ログは複雑化している。セキュリティ専任者を設けたとしても攻撃経路、原因端末を自身で判断するのは困難になってきているといった課題もある。

このような課題に対し、昨今のセキュリティ製品はエコシステムによる製品連携を行ってい

るものが多い。このような製品連携によるセキュリティシステムを採用することにより、医療情報システムの強靱化を図るとともに、セキュリティ脅威発見時の動作を自動化するといった運用工数削減を行うことができる。今回はセキュリティ製品連携による多層化セキュリティシステムについて紹介する。

内容

- 医療情報システムネットワークのセキュリティポイントと製品カテゴリ
- マルチベンダ連携による多層化セキュリティシステム
 - エンドポイントセキュリティ製品連携によるソリューション
 - ◇ 資産管理アプリケーションと連携したネットワークアクセス許可
 - 管理端末・非管理端末のネットワーク区分
 - 脆弱性端末・禁止操作端末の排除
 - ◇ 多要素認証連携ネットワーク接続
 - パケットスヌーピング型セキュリティ製品の役割と連携
 - ◇ マシンラーニングによる攻撃発見と攻撃端末の排除
 - ゲートウェイ製品連携による踏み台端末の排除
 - ◇ マルウェア感染端末の情報漏えいおよび内部拡散防止策
 - ◇ 専用端末-サーバ間のホワイトリスト通信によるセキュリティ
 - IoT 端末接続に対するセキュリティ
 - 物理セキュリティと情報セキュリティとの連動

【資料提供】

フォーティネットジャパン株式会社

【参考資料】

Findings of First Half 2015 Bench Level Index

Ponemon Institute Sixth Annual Benchmark Study on Privacy & Security of Healthcare Data

ランチョンセミナー 2

株式会社ファインデックス

「業務に良く効く文書システムのメリット」について

日 時：平成 30 年 2 月 1 日（木）12：20～13：20

会 場：B 会場 ポールルームⅡ（3 階）

司 会：長谷川裕明（株式会社ファインデックス）

大学病院の中でも様々な事務処理が発生しております。これは IT 化がこれだけ進んだ現在においても中々合理化されていないところかと思えます。院内に残る様々な事務処理結果の紙。キングファイル にファイリングされた紙（探したくても探せないもの）が沢山キャビネットに残り、そして眠っていることと思えます。

そのような状況をより合理的に変えようとしている医療機関の例を今回紹介したいと思えます。広い大学病院内でリアルなもの（紙）を届ける非効率的な運用をいち早く電子に切り替えて合理的な運用をされている医療機関の先生方です。

前半の東大病院の井田先生には、病棟からの受発注に関する効率化について経緯からお話を頂きます。病棟や中央診療部門からの発注はトナー・コピー用紙などの物品の購買や、機器の修理等多岐にわたります。これらを、従来の人手による伝票の搬送やFAXでの管理から、電子的な発注処理・管理への切り替えを思い切ってなされております。

後半の京大病院の岡本先生には、問診票を紙から電子に切り替えるための取り組みや様々な部門におけるFAX運用の電子化の取り組みを紹介いただきます。FAXを利用して情報のやりとりをしていた運用から院内ネットワークを利用した運用へと大きく舵をきりました。

皆さまの奮ってのご参加を何卒宜しくお願い申し上げます。

1. 病棟の受発注業務の効率化。院内ネットワークを利用した業務改善方法について
井田有亮（東京大学医学部附属病院 企画情報運営部）
2. 文書システムを利用した業務改善。部門リクエスト対応方法と問診票に関する改善提案
岡本和也（京都大学医学部附属病院 医療情報企画部）

ランチョンセミナー 3

日本電気株式会社

次期病院情報システム更新に向けた要求仕様とその作成過程

日 時：平成30年2月1日（木）12：20～13：20
会 場：C会場 ザ・ウエストラーム（2階）
座 長：遠藤 晃（北海道大学病院 医療情報企画部）
演 者：山岡紳介（金沢大学附属病院 経営企画部）

金沢大学附属病院では、病院情報システム更新を2020年1月に計画している。本稿記述時点では、2018年1月半ばに第一回の仕様策定委員会を開催、2月上旬に資料提供招請の官報公示を予定している。本講演では、現在作成中である要求仕様書の中から、現行のパッケージでは標準実装されていない、新たに要求する機能を何点かピックアップし、仕様内容の説明だけでなく、仕様作成までに至った過程や、関連情報も併せて述べさせていただく。

ランチョンセミナー 4

Dell EMC

医療ITの最新鋭化を止めない為に。

いまこそ求められるヘルスケアのデータ保護とは――

日 時：平成30年2月1日（木）12：20～13：20
会 場：D会場 ザ・イーストラーム（2階）
演 者：今井 浩（Dell EMC DPS 事業本部）

演 者：小川達彦 (Dell EMC DPS 事業本部)

IT は第三世代の技術が実用段階に入りつつあります。車は自走を始め、ディープラーニングや AI がヒトに代わって様々な活動を行う時代。医療分野でも機器の発達を越え、ヒトそのものがデジタルデータ化されていく時代が目の前に迫っています。

そのような環境の進化に伴い、サイバー攻撃や様々な脅威からこれからの医療 IT を守り、稼働を止めない為にどのようなアプローチをとっていくべきか。事例を基に Dell EMC のソリューションをご紹介します。

総会・閉会式

日 時：平成 30 年 2 月 2 日 (金) 10:05~11:30

会 場：A 会場 ボールルーム I (3 階)

各種委員会

医療情報部長会・幹事会

日 時：平成 30 年 1 月 31 日 (水) 15:00~16:00

会 場：A 会場 ボールルーム I (3 階)

医療情報部長会

日 時：平成 30 年 1 月 31 日 (水) 16:00~18:00

会 場：B 会場 ボールルーム II (3 階)

UMIN 小委員会・薬剤

日 時：平成 30 年 2 月 1 日 (木) 9:00~10:00

会 場：BIZ ルーム I (4 階)

診療情報管理士連絡会

日 時：平成 30 年 2 月 1 日 (木) 10:40~12:00

会 場：BIZ ルーム I (4 階)

UMIN 協議会・幹事会

日 時：平成 30 年 2 月 1 日 (木) 15:00~16:40

会 場：BIZ ルーム I (4 階)

UMIN 協議会・総会

日 時：平成 30 年 2 月 2 日 (金) 11:30~12:00

会 場：A 会場 ボードルーム I・II (3 階)

運営委員会

日 時：平成 30 年 2 月 2 日 (金) 12:00~13:00

会 場：大和 (4 階)

ポスター発表

日時：2月1日（木） 9：00～17：15

2月2日（金） 9：00～11：30

立会：2月1日（木） 16：15～17：15 の間で各演題 15 分間

（演題ごとの立会時間は、ポスターパネルに掲示いたします。）

会場：ポスター A 会場（2階 ライラック）

P1-01～36（看護）

ポスター B 会場（2階 パンジー）

P2-01～13（診療情報管理）、P3-01～16（病院情報システム）、

P4-01～06（薬剤）

ポスター C 会場（2階 ローアン）

P5-01～23（病院マネジメント（事務））、P6-01～02（検査）、

P7-01～03（放射線・医用画像）、P8-01～03（臨床研究・治験）、

P9-01（地域連携）

I 看護

- P1-01 ～クリニカルパス支援体制の構築～
パス専任看護師の配置と円滑なパス運用
金澤 昭代（徳島大学病院）
- P1-02 食物アレルギーに関する入退院センターと栄養管理部との連携
～入院前からの確実な情報共有と準備に向けて～
織田 裕子（旭川医科大学病院）
- P1-03 テンプレート記録管理に対する取り組み
松前 有香（香川大学医学部附属病院）
- P1-04 チーム医療を基盤とした急変対応能力向上研修の取り組み
～福井県委託事業と協働した院内メディカルラリー～
高山 裕喜枝（福井大学医学部附属病院）
- P1-05 A 大学医学部附属病院における退院支援研修の取り組み
村田 美穂（福井大学医学部附属病院）
- P1-06 文書システムを利用した看護過程の展開
～「入院ナビ」を作成して～
寺阪 比呂子（浜松医科大学医学部附属病院）
- P1-07 人員配置シミュレーションによる看護部戦略
近藤 佐地子（徳島大学病院）
- P1-08 診療報酬算定状況の見える化の取り組み
齋藤 凡（東京大学医学部附属病院）

- P1-09 重症度、医療・看護必要度評価における他部署評価
～評価の根拠となる記録を目指して～
遠藤 美代子（東京大学医学部附属病院）
- P1-10 『退院支援ナビ』を活用した退院支援
～多職種で連携した退院支援をするために～
高田 なおみ（浜松医科大学医学部附属病院）
- P1-11 信大病院における介護連携推進のための「見える化」に関する取り組み
～ケアサポート支援システムの開発と運用に関する報告～
篠原 弘枝（信州大学医学部附属病院）
- P1-12 新採用者向けシステム研修の変遷と課題
谷内 彩乃（高知大学医学部附属病院）
- P1-13 服用薬の薬剤管理判断の標準化・見える化の取り組みについて
～電子カルテにおける薬剤管理判断アセスメントシートの運用～
内田 緑（信州大学医学部附属病院）
- P1-14 重症度、医療・看護必要度の適正な評価と監査のための当院の工夫
東 智香子（三重大学医学部附属病院）
- P1-15 カテゴリセットの活用状況
壬生 季代（高知大学医学部附属病院）
- P1-16 A大学病院10階東病棟の現状と課題
～年齢や看護必要度B得点による在院日数、転帰への影響～
本間 敦（旭川医科大学病院）
- P1-17 歩行自立患者の転倒インシデント減少に向けての検証
青沼 佑未子（旭川医科大学病院）
- P1-18 看護職員における物品請求間違いの実態と防止対策の検討
伊藤 友美（岐阜大学医学部附属病院）
- P1-19 「ゴードンの機能的健康パターン」に基づく看護記録・看護過程の継続教育
～「個別性のある看護計画立案及び看護記録」をめざして～
岩佐 文代（滋賀医科大学医学部附属病院）
- P1-20 多職種連携の取り組みと業務の効率化
～手術基本器械セットの見直しを通して～
江副 智美（長崎大学病院）
- P1-21 与薬指示実施簿の電子化による看護師の与薬業務の変化と課題
西田 菜都子（京都大学医学部附属病院）
- P1-22 外来化学療法における記録システムを活用した継続看護
安齊 綾果（北海道大学病院）
- P1-23 電子カルテによる効率的および効果的な入院時看護記録の検討
楠見 由里子（筑波大学附属病院）

- P1-24 業務ワークシート画面と iPod touch 導入前後における記録業務の検証
～ペーパーレス化による業務の効率化を目指したシステム構築～
中西 智子（熊本大学医学部附属病院）
- P1-25 患者情報の一元化を目指したプロフィールの作成と継続看護を目指した看護サ
マリの検討
塚田 隆太（秋田大学医学部附属病院）
- P1-26 重症系部門システムの病院カルテシステムとの一元化
～ KAIJU 重症系システムの構築～
塘田 貴代美（熊本大学医学部附属病院）
- P1-27 集中治療部における『看護オーダー』システム導入の現状と課題
～看護を継続するために～
東平 正志（熊本大学医学部附属病院）
- P1-28 重症度、医療・看護必要度による超過勤務時間の要因分析
山崎 祐子（島根大学医学部附属病院）
- P1-29 電子化重症新生児経過表導入後の評価
櫻井 倫代（山口大学医学部附属病院）
- P1-30 看護専門職のプロフェッショナルリズム研究の現状と課題
小野寺 美希子（札幌医科大学附属病院）
- P1-31 安全な急変対応シミュレーションへの取り組み
佐藤 純（旭川医科大学病院）
- P1-32 働き方改革の実践
～勤務開始前の情報収集時間削減の取り組み～
五十嵐 行江（福井大学医学部附属病院）
- P1-33 看護必要度 C 項目評価
～システムの構築と運用について～
長尾 麻紀子（弘前大学医学部附属病院）
- P1-34 入院時情報収集方法の変化がもたらす看護への効果
～「入院前の生活状況用紙」中止後の実態調査から～
大田黒 一美（金沢大学附属病院）
- P1-35 個体識別コードを用いたトレーサビリティシステム導入の効果
諏訪 万恵（福井大学医学部附属病院）
- P1-36 静脈注射の習得過程における O J T 教育の重要性
～静脈留置針の正しい固定方法の習得への取り組みから～
賀古 千亜紀（札幌医科大学附属病院）

2 診療情報管理

- P2-01 高度急性期医療機関一般病棟における血液製剤毎の輸血時副作用観察記録の電子化
横田 慎一郎（東京大学医学部附属病院）
- P2-02 入院期間を意識したパス運用におけるPDCAサイクルの必要性
辻岡 和孝（富山大学附属病院）
- P2-03 統一説明同意文書作成の取り組み
～インフォームド・コンセントの充実～
千明 賛子（群馬大学医学部附属病院）
- P2-04 診療記録監査における診療記録記載改善に向けての取り組み
野口 真理（高知大学医学部附属病院）
- P2-05 外来診療録の搬送停止への取り組み
守屋 晴菜（東北大学病院）
- P2-06 当院における災害診療記録の現状と課題
～診療情報管理士の視点から～
加藤 真嗣（浜松医科大学医学部附属病院）
- P2-07 退院サマリー作成率向上への取り組み
伊藤 詩歩（東北大学病院）
- P2-08 診療記録の量的監査業務における医療情報システム利用とその効果
不破 由美（三重大学医学部附属病院）
- P2-09 情報化医療時代の大学病院にふさわしい文書管理を目指した棚卸し
神山 友美（千葉大学医学部附属病院）
- P2-10 演題取り下げ
- P2-11 多職種による診療情報管理部ミーティングでの活動
細野 貴広（群馬大学医学部附属病院）
- P2-12 地域医療連携部との協働によるDPCへの取り組み
池田 あり子（福井大学医学部附属病院）
- P2-13 診療録監査結果から得た今後の課題について
谷村 幸恵（京都大学医学部附属病院）

3 病院情報システム

- P3-01 九州歯科大学附属病院における紙・デジタル文書管理システム導入についての考察
守下 昌輝（九州歯科大学／九州歯科大学附属病院）
- P3-02 端末使用状況調査による端末数の適正化
山田 健太郎（滋賀医科大学医学部附属病院）

- P3-03 鏡視下手術動画自動録画編集システムの構築
～SS-MIX 拡張ストレージ活用方法の一例～
小野 悟（浜松医科大学医学部附属病院）
- P3-04 System replacement に関連する広報活動の成果
～News Letter 編集委員に任命されて～
杉浦 裕子（名古屋大学医学部附属病院）
- P3-05 費用対効果を重視した病院情報システムネットワークにおける災害時コミュニティサイトの構築
船田 徹（信州大学医学部附属病院）
- P3-06 手術室における麻薬管理システムの構築とその評価
～麻薬実施記録の電子化と一元管理～
岡本 明大（三重大学医学部附属病院）
- P3-07 文書管理システム運用の現状と今後の課題
松村 朋絵（三重大学医学部附属病院）
- P3-08 病棟からの発注伝票を電子化することによる業務改善の試み
～基幹システムから取り残されてきた業務を電子化するための業務整理と要件定義～
井田 有亮（東京大学医学部附属病院）
- P3-09 電子カルテでの室料加算機能の開発の工夫と問題点
岡本 有希（三重大学医学部附属病院）
- P3-10 「院内情報共有掲示板」による病床稼働率改善への取り組み
石井 洋志（金沢大学附属病院）
- P3-11 針刺し・切創/血液・体液曝露システム導入と稼働後の課題
渡邊 翼（北海道大学病院）
- P3-12 新病院情報システムにおける USB ブート型シンクライアント導入による旧ノート型パソコンの再利用
辻村 真一（群馬大学医学部附属病院）
- P3-13 トラフィック分散のためのネットワーク構成の変更
伊藤 和哉（東北大学）
- P3-14 本院データウェアハウスの利用状況と検索条件の定型コンテンツ化の検討
佐川 静子（秋田大学医学部附属病院）
- P3-15 無線 LAN 環境最適化の取組み
千葉 雅俊（東北大学病院）
- P3-16 生涯メールサービスにおけるセキュリティ対策
鈴木 麻里恵（東北大学大学院）

4 薬剤

- P4-01 薬剤マスタに存在する設定不備の発生状況調査とその検討
本多 立（三重大学医学部附属病院）
- P4-02 入院契機病名に係る持参薬の院内運用と一元管理持参薬管理システムの連携構築
嶺 豊春（長崎大学病院）
- P4-03 後発医薬品への切り替えおよびバイオ後続品の採用と価格交渉強化による医薬品費抑制の取り組み
向原 里佳（三重大学医学部附属病院）
- P4-04 医薬品照合・数量管理システムによる薬剤業務支援の評価
山本 大（福井大学医学部附属病院）
- P4-05 血液内科外来における多剤処方減算対象症例に対する取り組み
野口 葉子（京都大学医学部附属病院）
- P4-06 当院での処方カレンダー導入の取り組み
～処方関連のインシデントは減るのか～
村井 健太郎（信州大学医学部附属病院）

5 病院マネジメント（事務）

- P5-01 分析結果を基盤とした費用削減
市川 貢資（鳥取大学）
- P5-02 電子カルテ端末起動におけるパフォーマンス改善の取り組み
～費用削減を目指した改善活動～
矢野 弘章（岐阜大学医学部附属病院）
- P5-03 プリンタ機種見直しによる消耗品コストの削減
～京都大学医学部附属病院の事例～
杉野 剛史（京都大学医学部附属病院）
- P5-04 標的型攻撃メールへの対策
～全職員を対象とした内製での訓練実施～
國吉 敦史（東京医科大学病院）
- P5-05 HOMAS2の取り組みについて
～活用から成果へ～
正木 純一（東京大学医学部附属病院）
- P5-06 病院資産の現有医療機器調査と今後の取組について
明平 和久（東京大学医学部附属病院）
- P5-07 診療科ヒアリングによる経営改善のとりくみ
～病院稼働額 452.1 億の達成に向けて～
松田 恵理菜（東京大学医学部附属病院）
- P5-08 国立大学病院データベースセンターにおける DPC データの質改善活動
平岡 晃（東京大学医学部附属病院）

- P5-09 経営戦略企画部における経営改善に向けた取組
山田 大史 (福井大学)
- P5-10 病院経営に関するコラムを通じた情報提供の在り方
佐藤 惇史 (東京大学医学部附属病院)
- P5-11 インセンティブの附与
～全教職員一体となった医療材料費の削減～
黒瀬 一清 (滋賀医科大学)
- P5-12 Are you having fun? ～あなたが伝える大学病院の魅力～
～第11回国立大学附属病院若手職員勉強会 概要報告～
谷崎 蘭友美 (愛媛大学医学部附属病院)
- P5-13 三重大学病院が目指す SPD 機能強化と在庫削減 ～失敗に学んだ改善活動～
山下 城 (三重大学病院)
- P5-14 学長特別補佐 (医療コンサルティング) と事務組織との共働における診療報酬
改定の情報提供と今後の診療方針に係るディスカッション
～病棟ラウンドにより現場へ赴いた事務職員の想い～
丸田 一貴 (旭川医科大学)
- P5-15 医師事務作業補助業務の再編・拡大と補助者の育成・配置
関 奈保美 (千葉大学医学部附属病院)
- P5-16 医療材料の適正価格
～その交渉のやり方でいいですか?～
久保 直毅 (高知大学)
- P5-17 後発医薬品 (ジェネリック) 使用率向上への取り組みとその結果
～「プロジェクト」から「ルーチン業務化」へ～
橋場 哲也 (旭川医科大学)
- P5-18 第8回国立大学附属病院係長クラス勉強会実施報告
～ディベートおよびプレゼンテーションからの気づき～
野口 章 (東京医科歯科大学医学部附属病院)
- P5-19 国立大学附属病院による医療材料の共同調達実施報告
府川 智行 (東京大学医学部附属病院)
- P5-20 病院経営における委託費管理手法の構築について
竹本 浩伸 (東京大学医学部附属病院)
- P5-21 在院日数の適正化のための評価指標の検討
～在院日数短縮に伴う収益減と患者・医療者負担の解消に向けて～
岩穴口 孝 (鹿児島大学病院)
- P5-22 患者別原価計算を行うためのデータ検証についての取り組み
～経営分析システムの活用にあたって～
米倉 徹 (長崎大学病院)
- P5-23 千葉大学医学部附属病院における医療費削減の取り組みについて
川田 マミ (千葉大学医学部附属病院)

6 検査

- P6-01 照合システムに着目した輸血の安全性にはたす輸血部門の役割
藤井 聡 (旭川医科大学病院)
- P6-02 岡山大学病院検体検査システムにおける臨床検査項目分類コードの現状
川下 隆二 (岡山大学病院)

7 放射線・医用画像

- P7-01 線量管理システムの利用法についての考案
小澤 聡 (京都大学医学部附属病院)
- P7-02 画像処理に対する支援情報システムの構築
岩田 竹史 (岐阜大学医学部附属病院)
- P7-03 小型受付システムの導入効果
-放射線受付システムについて-
赤木 憲明 (岡山大学病院)

8 臨床研究・治験

- P8-01 電子カルテを活用した治験や自主臨床研究における薬剤管理体制の構築
平松 裕之 (藤田保健衛生大学)
- P8-02 大学病院臨床研究基盤 (TUHCRIS:Thin-client University Hospital Clinical
Research Infrastructure) の開発
近藤 博史 (鳥取大学医学部附属病院)
- P8-03 UHF 帯 RFID タグを用いた3点照合機器の実地検証および患者への影響調査【中
間報告】
佐野 龍樹 (三重大学医学部附属病院)

9 地域連携

- P9-01 在宅患者訪問看護・指導料算定運用までの多職種地域連携のプロセス
～他施設褥瘡患者の皮膚排泄ケア認定看護師による訪問に向けて～
田中 理佳 (旭川医科大学病院)